

## カタクチイワシ *Engraulis japonicus*

口が大きいわりに下アゴが短く、上アゴばかりが目立つことから、「片口」イワシと呼ばれます。高知県内では、仔魚をシラス、幼稚魚をカエリあるいはドロ、成魚をホタレなどと呼びます。本種を「マイワシ」と呼ぶ地域もありますが、正式な名称の「マイワシ」は、別掲にもあるとおり県内で一般に「ヒラゴ」と呼ぶ魚のことなので注意が必要です。シラスはちりめんじゃこ、煮干し品は炒り子として用いられます。成魚は生鮮品や干物のほか、カツオ竿釣りの餌としても利用されます。



### 生物特性

高知県で漁獲されるカタクチイワシは太平洋系群に属し、北海道から九州にいたる沿岸から沖合まで広く分布しています。寿命は4歳に達すると考えられています。満1歳で被鱗体長11cm、2歳で13cm程度に成長します。満1歳で成熟し、冬季を除くほぼ周年産卵しています。本県沿岸域でも卵はほぼ周年採集され、産卵盛期は4～5月です。多くの魚の卵は真円形をしているのに対し、カタクチイワシの卵は楕円形をしているので、容易に識別できます。

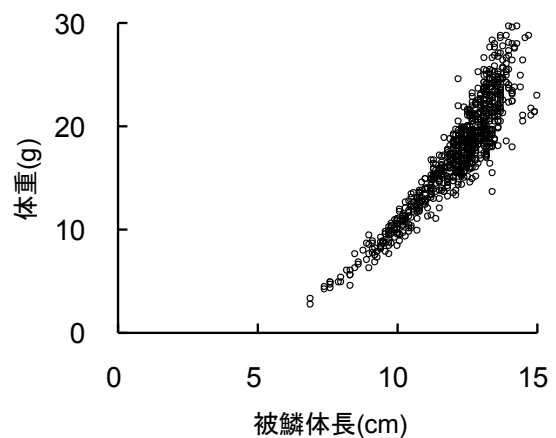


図1 高知県産カタクチイワシの被鱗体長と体重の関係（平成17年～23年の測定データに基づく）。

### 資源動向

カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、平成10年（1998年）以降、高水準にありました。しかし、平成15年（2003年）をピークとして減少傾向に変わりました。平成22年度におけるカタクチイワシ太平洋系群の資源水準は「中位」、動向は「減少」と考えられています。

## 県内の漁獲動向

高知県内におけるカタクチイワシ漁獲量は昭和30年代に減少し、以後は増減しつつほぼ横ばい傾向にあります(図2)。主に宿毛湾の中型まき網と、県内各地の定置網により漁獲されます。

宿毛湾の中型まき網では、春から夏を中心に漁獲され、冬季はほとんど漁獲されません。定置網では1~7月に漁獲され、ピークは2月にあります。8月以降はほとんど漁獲されません(図3)。

このように、高知県では周年にわたってカタクチイワシを多獲する漁業がないので、県内の漁況から成魚の来遊水準を予測できない場合が多くあります。近県の漁況とその予測を参考にしつつ、本県の来遊量予測を行っています。

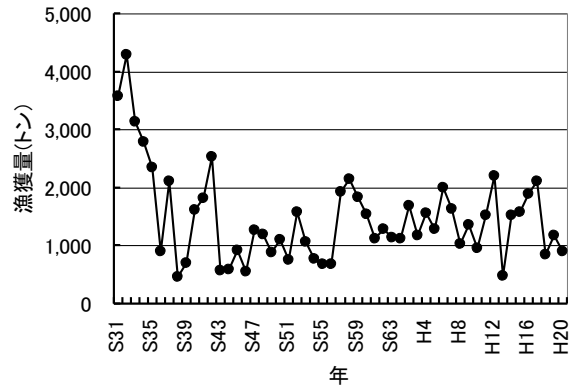


図2 高知県下におけるカタクチイワシ漁獲量の推移。

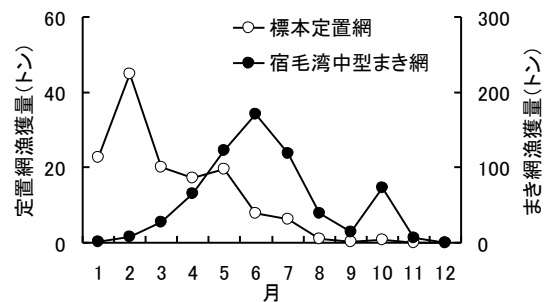


図3 標本定置網とすくも湾の中型まき網によるカタクチイワシの月別漁獲量。平成11年~平成20年の平均値で示す。